

令和元年度がスタートしました。昨年度に引き続き、日頃の「雑感」を綴ってまいります。ご覧いただけましたら幸いです。

All for one, and one for all. No.53

R1. 7. 1 「先生方を対象とした説明会を実施」

一昨年から始めた中学校教諭向け学校説明会。市内や近隣の中学校の先生方44名の皆様、お忙しい中ご来校くださいました。ご配慮をいただいた各中学校の校長先生はじめ、ご参加いただいた先生方に、心より厚くお礼申し上げます。

説明会では、単位制の趣旨、在校生の現状や進路希望、学習をはじめ教育活動全般にわたる特色、今春の進路状況等についてお話をさせていただきました。

夏季休業明けには、生徒対象の説明会も予定しています。皆様からのご要望やご意見を真摯に受け止めながら、沢山の中学生の皆さんに支持していただける学校づくりに努めてまいります。



All for one, and one for all. No.54

***エイリョウ・アラカルト 「生徒の行動に感動！」**

夕方、ある方から「感謝」のお電話をいただきました。自転車で転倒した小学2年生の子どもを介抱し、自宅まで送り届け、その時の状況を詳しく説明してくれた男子高校生がいるとの内容でした。たまたま着ていたジャージのネームから、本校の生徒とわかりご連絡をくれたとのこと。お子様が大きな怪我に至らなくなによりです。



こうした行動は当たり前のようにも思えますが、老若男女を問わず、見て見ぬふりをする人が数多くいるのも現実です。この生徒の豊かな心と適切な行動は、私たち大人も見倣わなければなりません。

お電話いただくことは、該当の生徒にはもちろん、朝の打合せで教頭先生から先生方にご紹介いただき、機会をみて在校生にも伝えていきたいと思えます。

小学2年生のお母様にも、お電話をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

All for one, and one for all. No.55

R1. 7. 6～7 「第4回永嶺祭1日目」

6日（土）・7日（日）両日に、高校生活最大の生徒会イベント「第4回永嶺祭」を、地域の皆様の多大なるご協力のもと開催いたしました。

今年は平成から令和へと改元された節目の年でもあり、学祭タイトルも、生徒一人一人の新たな時代への希望を掛け合わせ、「嶺和～Hey!Sey!でいられない!!」となりました。このタイトルには、「未来は自分たちの手で切り拓くんだ!」という生徒の積極的な意気込みが秘められています

吹奏楽のファンファーレに続いて行われた「テーマソングLIVE」や「オープニング

セレモニー」で全校生徒の気持ちが一つになりました。さらに、「EIRYOU STATION」での、クラスTシャツのファッションショー（永コレ）、吹奏楽局によるダンプレ、3年次担任によるパフォーマンスと会場は大いに盛り上がりました。



「連合対抗ステージ発表」は、1年次から3年次の代表が縦割りでグループを作り（異年次生混合）、それぞれが独創的なダンスを披露します。ストーリー性を織り込んだものや、独特の振り付けによるパフォーマンス、中にはクラシックバレエを取り入れたものなど、生徒の創造力豊かな表現の競演についつい見入ってしまいます。



「クラスパビリオン」は各クラスが創意工夫を凝らし、教室を異次元の世界に作り変え

るという凌雲高校時代からの伝統的な催しです。案内役やキャスト同士のやりとりが何とも絶妙で微笑ましく、生徒の頑張りがひしと感じられる見事な出来映えです。

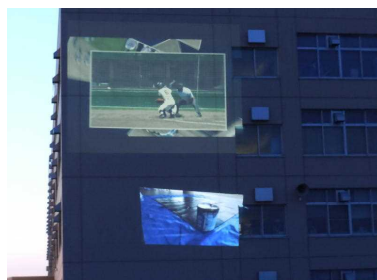


階段の踊り場に飾られた「PR用クラスパネル」は立体的に仕上げられ、それだけでも別世界に引き込まれるような雰囲気を出し出す芸術的な出来映えになっています。

一般公開では、例年沢山の方々にご来場いただいています、お子様から大人に至るまで必ず喜んでいただける企画になっています。



後夜祭では「未成年の主張」が行われ、日頃の思いを屋上から全校生徒に向かって訴えます。時折、聴衆との駆け合いもあり、大きな笑いが沸き起こりました。

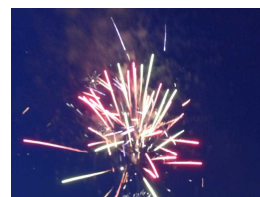


校舎の壁には、放送局が作成した学校祭準備の映像が、野球支部大会の映像とともに映し出されます。

クラスメイトが協力しながら作業している時の笑顔や出しものに対して真剣な表情で練習する姿など、いずれにも若さの特権が感じられます。



締めくくりは恒例の「花火」。頭上に上がる数々の大輪が疲れを癒やし、心に潤いを与えてくれます。明日は一般公開になります。来校していただく皆様への「感謝」の気持ちを忘れことなく、丁寧なおもてなしを心がけて欲しいものです。



All for one, and one for all. No.56

*エイリョウ・アラカルト「保護者の支援に感謝！」

例年行っている前夜祭後の巡回指導に、PTAの皆様が加わってくれることになりました。今年度の総会で、役員並びに各年次の生活委員が中心となり、生徒の下校経路の安全保持を目的に巡回してくれることが決まりました。

この日も20名以上の役員や委員の方々がグループに分かれ、通学路付近の巡回に当たってくれました。独自に作成した反射付のたすきや腕章に大きく校名が記入されているせいか、「生徒の方から挨拶を受け、協力して良かった。」という保護者の声も多数聞かれました。学校と家庭が協力して安全確保に動いていることに、生徒も安心して帰宅の途についたようです。



All for one, and one for all. No.57

R1. 7. 6~7 「第4回永嶺祭2日目」

一般公開となる2日目も好天に恵まれ、最高の学校祭日和となりました。この日のメインは主に文化的活動の展示・発表や模擬店になります。

各会場で、写真・絵画・書道の作品展示、国際クラブによる活動紹介、放送局によるVTR上映、茶道部による茶会、演劇部や吹奏楽局による発表など、日頃の教育活動の成果を見聞していただきました。





一方模擬店を中心とする外庭では、保護者も含め、多くの一般客の皆様で賑わいました。焼きそば、クレープ、ジュース、スムージー、焼き鳥といった定番の模擬店に加え、PTAや吹奏楽局保護者会の皆様の模擬店も軒を連ねます。さらに、今回は一般の皆様の昼食のため、カレーやハンバーガー、ラーメンのキッチンカーにも登場していただきました。



二日間に渡る学校祭が当初の予定どおり無事終わることができましたのも、準備から始め、地域の皆様や保護者の皆様の多大なるご協力があったることと、心より感謝申し上げます。皆様のご協力は学校祭に限ったことではなく、全ての教育活動において言えることです。引き続き、あらゆる機会を通して生徒たちには伝えていきたいと思ひます。

今後も、変わらぬご支援を賜りますことお願い申し上げます、お礼とさせていただきます。本当に有り難うございました。

All for one, and one for all. No.58

*エイリョウ・アラカルト 「資料室を開館」



本校の前身となる旭川東栄高校と旭川凌雲高校の資料等を保管した教室を、学校祭に合わせて開放しました。両校OBの皆様も学校祭に多数見えられることから、自由に見ていただけるようホームページ等でもご案内いたしました。

当時の校訓や数々の大会関係資料、アルバムや写真などを展示させていただいています。この資料室は、両校が閉校の際に、それまで使用していた記念品を持ち寄り、同窓会の皆様のご支援で作られたものです。是非多くのOBの皆様にご歓談の場としてご活用いただければ幸いです。

なお、通常は施錠しておりますが、いつでも事務窓口で鍵を貸し出していますので、気軽にお立ち寄りいただき当時は懐かしんでいただけると嬉しいです。なお、展示でのご要望等がありましたらご遠慮なくお知らせ願ひます。



R1. 7.17 「高文連全国壮行会」

7校時目を使い、「高文連全国壮行・全道大会賞状伝達式を行いました。今年度、全国切符を手にしたのは、書道部の3年次生 神谷 美咲さんと放送局の面々です。



手本を見ながら正しい筆順できれいな文字を書く「習字」に対して、「書道」はそうした基本を土台としながら、そこに自らの内面を表出する芸術ということになりましょうか。神谷さんは、習字の勉強を継続しながら、学校では古典の臨書などに取り組んでいるとのことでした。佐賀県で行われる全国総文祭では、同年代の作品に秘められた様々な内面に数多く触れることで、さらに感性を磨いてきて欲しいと思います。

一方、放送局の作品名は「落ちルンです」。一体何が落ちるのかと思いきや、机の上のあらゆるものが所狭しと落ちまくる映像から、現在の学校机の小ささを訴えた作品です。身近なテーマへの着眼とユーモアを交えたテンポの良いシナリオに、多くの審査員が評価してくれることを期待したいものです。

R1. 7.19 「大学出前講座」

2年次生を対象に「大学出前講座」を実施しました。この取組はキャリア教育の一環として行っており、各分野の大学教授や准教授の方々を招聘し、生徒個々が自分の進路にあった講義を受講します。



進路内容をより詳しく理解することで、生徒は興味関心を持ち一層意欲的になります。また、自分のイメージと大きく異なれば進路変更も可能です。「キャリア教育」は、将来を真剣に考える機会設定であるとともに、主体的かつ積極的に携われるものを明確にしていくところに意義があります。



今回は、看護系、医療系（理学・作業療法、検査技師）、教育系、経済系、理工系（バイオ・環境科学、建築・土木・電気・電子・機械）文学系、法学系、家政・栄養系、語学系、心理・カウンセリング系に分かれて受講しました。

同じ進路希望を持つ者同士が集い、外部講師の先生からより専門的なお話を聞くことで、生徒たちは将来への道筋を強く意識したことでしょう。そのために身につけるべきことを、この夏季休業期間にどれだけできるか。せっかくいっきかけをもらったわけですから、無駄にすることなく、悔いの残らない時間を過ごしてくれることを願っています。

All for one, and one for all. No.61

R1. 7. 23～24 「高大教科連携」

本校では、開校当初から旭川医科大学と教科連携をさせていただいています。生物に興味関心を持つ生徒を中心に、年4回の学習プログラムを通して科学的思考力や表現力を培うことがねらいです。

講演やワークショップ、大学での高度な器具を用いた実験などを通して、自らの考察をまとめ、成果を発表し合います。テーマは「顕微鏡でみる生命のかたち」で、旭川医科大学の 平 義樹 氏に大学さながらのご指導をいただきながら、より高度な生物を学んでいきます。



基礎基本を身につけることはもちろん大切ですが、特に関心のある分野において、より高度な学習内容を体験することで、生徒たちは飛躍的に力をつけていきます。平先生には、大変お忙しい中毎回ご指導をいただき、厚く感謝申し上げます。

All for one, and one for all. No.62

*エイリョウ・アラカルト 「社会と情報」

情報科目「社会と情報」では、このたび生徒が「名刺づくり」に挑戦しました。各单元における要点を有機的に結合し、より実践的な学習効果を生み出すことをねらいとする、模擬体験を交えたアクティブ・ラーニングです。

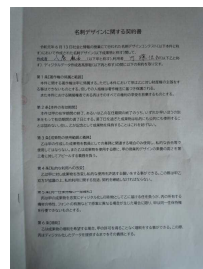


多様なニーズを考慮しながら、レイアウト、色合い、バランス、表現などを工夫し、個々にオリジナルの名刺を考案しプログラムしていきます。同時に、宣伝効果を考えたプレゼンにより主体的な表現力を培います。

また、使用者との間で模擬契約を交わすことで、契約の必要性や意義について学習するとともに、オリジナルデザインに付きものの著作権についても理解を深めます。

独創的な名刺が数ある中、2年次 八巻 麻由 さんのデザインに強く惹かれ「校長賞」とさせていただき、ご本人と模擬契約を結ばせていただきました。

「学び」が「実生活」と結びつき、生徒個々の思考力や表現力によりさらに発展し、様々な場面で創造的に生かされていくことが、これからの社会では必要になってきます。



模擬契約書

R1. 7.25 「保健講話」

3年次生を対象とした保健講話を実施しました。北翔大学心理カウンセリング学科准教授でいらっしゃいます 飯田 昭人氏をお招きし、「困難な状況に対して求められる力とは」と題して、レジリエンスやストレスマネジメントなどの心理学の視点についてご講話をいただきました。

この時期から本格的な受験モードに入る3年次生は、様々な困難に遭遇しながらも、それを自身の力で乗り越えていかなければなりません。その意味においても、今後の自分の心理状態を安定させ、ストレスを解消して術は知っておく必要があります。

強いメンタルを持ち、一人一人が有意義な時間を過ごしてくれることを期待しています。

